

前追記―お詫びと訂正

前回(「其の四」：一〇日五日付)の記事中、「美空ひばりに特化してゐる女子(七月にプロ歌手として活動開始)」の学年の記述に誤りが在りました。以下の如く訂正致して居ります(一月九日朝修正済)。

中学三年(中三) ↓

高校一年(高一)

「学校では先ず教えない特定分野に特段の関心を持ち且つ実社会の専門家と対峙するだけの卓越した能力を發揮する」子供(小学校中学年児童〜高等学校生徒)達を紹介する多様性番組『博士ちゃん』(『テレビ朝日』…以下、テレ朝)を「昭和に生まれ育つたが故、才能を活かす機会に恵

まれる事無く非正規就労を余儀無くされてる」発達障害(高機能自閉症)者の目で捉え論ずる五回目は、去る秋・即ち九月から一月迄の間に放送された新作八本の中から筆者也に関心と呼んだ「六十α」件を精査・選別の上で論ずるを試みたい。

ひとり音楽劇

(小学六年男子・九月三三日放送)

「生後六箇月(乳児期)から「?」音楽劇を数一〇作(全て劇団『四季』に拠る翻案物)観続け、三歳からは出演者選考会(是も全て『四季』に拠るものだろう…筆者)に幾度と参加するも全て失格」と云う男子が、企画から仕上げ迄を全て独りで熟し間 網で公開中の動画を紹介。其の動画を

通しての言葉や動きには総じて、何処か「不貞腐れ気味」な感(↑前述の劇団出演者選考会に於ける失格の繰り返し(「思い通りに成らなかつた事」に対する憂さ晴らし?)を禁じ得なかつた。

演じ手としては失格の烙印を押された感が在る、此の男子。将来は島一つを買って、其処を拠点に全て自作自演で動画を届け続けたい旨を語つてたが、

昭和レトロ銭湯

(懐古調) (小学三年男子・九月三〇日放送)

躍的な成長を遂げる、其の担い手と成る可能性も高く成ろうから一方々に御覧戴き、従業員としての獲得へ動く事を、筆者からも望みたい。

「将來は島一つを買って、其処を拠点に全て自作自演で動画を届け続けたい旨を語つてたが、日本国内で「一島買い」は先ず出来ない。但、若しかすると、作り手としては有望なだけの才能を備えてるかも知れない。

先ずは放送で紹介された彼自作の動画を、『四季』以外で音楽劇を手掛けてる専門家組織―出来れば大手で無い所が良い。何か変わった事・新しい事で飛

躍的な成長を遂げる、其の担い手と成る可能性も高く成ろうから一方々に御覧戴き、従業員としての獲得へ動く事を、筆者からも望みたい。

幼児期に自宅の浴室が事故で使用不能と成つて以来、東京都内の銭湯を複数、利用しては動画収録し間 網で公開してると云う小三男子。話し相手は中高年男性のみ(小学生同士・同期

或いは先輩後輩には話し相手が居ない)と云う事と併せ、「人情」と云う言葉を説明の席で連発してたのが氣に成つた。

「人情とは何か」旨の主司会者(お笑い芸人二人組の突っ込み役)

五〇年弱遅れの「しくじり博士ちゃん」

一九六三年(昭和三八年)三月出生

佳羅春男

其の伍

先天性脳障害(高機能自閉症=非知的障害)者の眼から見たテレビ番組

『博士ちゃん』に想う事

其の伍

佳羅春男

一九六三年(昭和三八年)三月出生

からの問いに、小三男子は答えられなかった。——昭和四〇年代に放送された「ちびっ子喉自慢」(『フジテレビジョン』に拠り一九六五(昭和四〇)〜六九年放送。其の後、テレ朝でも同様異名の番組を七三〜七九年放送)を連想させられたのは筆者だけだろうか。要するに、其の言葉の意味が判らぬ儘、放送或いは間網からのうろ覚えの儘に唯々、感覚だけで発してた、と云う事。

「人情」を間網辞書で見ると、①人間の自然な心の動き。人間のありのままの情感。②人としての情け。他人への思いやり。——と在る。

番組で九年後・即ち高校三年の彼に今一度、同じ問いを試みて戴きたい。若し前述間網辞書の解説の通り所か説明が殆ど出来なかつたら、彼の親御さん方には念の為、発達障害に関する専門医を訪ねた上で、検査を受けさせる事をお勧めしたい。

神社参拝・出雲／伊勢

(前者は小学四年女子、

後者は中学一年男子。

一〇月二八日放送)

共に陸上競技・特に大学駅伝競走とは縁が深い、「出雲大社」と「伊勢神宮」。前者の鳥居前は一〇月(四五・一km、六区間)の出発地点、後者の内宮「宇治橋」前は十一月(二〇・八km、八区間)の到着地点と成って居る。

出雲参拝に臨んだ「神社仏閣通」の小四女子には男性漫才師(二人組の暈げ役)が、伊勢参拝に臨んだ「古事記」精読↓神道辞典を自作」の中一男子には女性漫才二人組が、各々同行したが、後者は完全に誤配役。「神社の最高位たる場で極私的な願い事を口にするもんじゃない」旨、筆者としても口にせざるを得ぬ程、憤りを禁じ得なかつた。さて、此の二人の「博士ちゃん」は各々、神職を目指して居るのだろうか(明治以降、神職への道

は「男性のみ」が慣例と成って今日に至つて居るが、第二次大戦後は一応、女性にも神職への道は開かれて居る。若し其の通りで尚且つ、聖書と「タナハ(ユダヤ教典)」と「クルアーン(コーラン=イスラム教典)」とをも精読の上で、死をも恐れぬ覚悟を持って自ら行動する実行力も在るなら意外に、一〇年前後先の「包括的人材」候補と成るかも知れない。

元来、一国(此の場合は日本)内でしか活動しない「民族宗教」である神道「に限らず、多神教の殆どは「民族……」だが」。併し今や、敢えて其の枠を超え海外・特に「中東」(アジア西部とアフリカ北東部)へ自ら足を踏み入れ定住(又は駐在)し活動する事が求められて居ると筆者には思えるのだ。何故なら——

中東では、第二次大戦終了直後から「イスラエル国対アラブ諸国(十任意組織群)」の戦争が今に至る迄断続的に起きて

る。「ユダヤ教対イスラム教」と言い換えて間違い無い、宗教、其も「共に一神教」絡みの戦争だ。表立つ毎に、アメリカ合衆国の政府が仲介を試みるが、何れも失敗するか、一時的には成功したかの如く見えるも長続きせず皆、元の木阿弥。——併し、善く善く考えてみたら、合衆国や欧羅巴諸国が間に入った所で、巧く行く訳が無い。合衆国も欧諸国もキリスト教国。前二者と同様、一神教ではあるが、キリスト教とユダヤ教とは教えを多く共有して居る一方、イスラム教とは教義上の対立点が多い。亦、正に一神教たるが故に各々、異なる宗教・異なる教えが他に在る事を認識し難い。「判りたくない(?)」——と云う構造上の問題の存在も否めぬだろう。

そうした状況に在る中東に恒久的な安全且つ平和を齎すには結局、多神教のプロが各一神教の為政者・実力者の間に入り、

仲介に徹し和解を図る、しか思  
い付かない。其の意味で、「八  
百万の神(々)」の発想を持つ神  
道は正に、各一神教間の仲介を  
担う―素人考えと言われる事を  
承知の上で敢えて具体的に申す  
なら、神社を中東の街に建立し、  
其処を拠点に、イスラエルとア  
ラブ諸国を自らの足で訪れては  
関係当事国の為政者・実力者と  
会見し且つ彼等を同神社に招き、  
歌舞・武道：等の諸行事(神事)  
に体験的な形で参加して戴きつ  
つ、並行して彼等の間に自ら入  
って仲を取り持ち、和解を図る  
―に適した多神教であり、況し  
て哉、日本が戦後一貫して石油  
を始めとする鉱物資源の多くを  
中東から買っている事を考え併せ  
るなら、日本の恒久的な安全と  
平和を約束する意味でも、国会  
や政府の意向に拘らず、自ら進  
んで取り組むべき―と云う想  
いに至るのは筆者だけだろうか。  
此の二人の「博士ちゃん」が

次回、出雲と伊勢の参拝に臨む  
際には、芸人では無く、元NH  
K記者氏(二月三日放送分で「高  
野山巡礼」に同行)か或いは神道  
[を含む多神教]の国際貢献・  
海外進出に前向きな有識者氏を  
同行させた上で、「神道が恒久  
な世界平和の為に出来る事」に  
ついて語り合いつつ、参拝に臨  
ませては如何か。



●尚、一〇月放送分で出雲参拝  
に臨んだ小四女子は、翌年一月  
三日夕に放送の新作(三時間枠の  
前半分夜半弱にて。其の後、未公開分  
を追加の上で一月二〇日、通常の一時  
間強枠で再放送された)を通して、  
京都市内の神社三箇所を三司会  
者(お笑い芸人二人組と大学生女優)  
同行で参拝に臨んだが、将来の  
進路に関する言及は無かった。  
友人招待・

古生物／古時計

(共に中学一年男子・

一月二一日放送)

「博士ちゃん」は各々、発達  
障害(知的障害を伴わないもの)ア  
スペルガー症候群」「高機能自閉症」  
等。以下、達障)児―筆者も其の一  
人。但し、既に「児」では無く  
「者」と成っているが―か、或いは  
特才児(特定分野に特異な才能の  
在る児童及び生徒↑「ギフトッド」)  
か、の何れかであるが故に、人  
間関係・特に意思疎通に関わる  
障害を結果的に抱える(特才児の  
場合、「遅い」「執拗に拘る」「ぽにく  
る」等の症状が診られぬ一方、人並み  
より高い知能(指数一三〇以上)を持  
つが故に平均的知能の子達とは殆ど  
話が合わない)旨を過去幾度か、  
本書で述べた。  
其故だろう、自分の持ち前の  
能力が友達には理解して貰えぬ  
と思ひ、周囲には中々伝えられ  
ぬ「博士ちゃん」も少なくない  
―と云う事で、何れも中一の「古  
生物男子(二〇〇〇点以上を自宅の  
略全域に所蔵)」と「古時計男子(一  
四〇点以上を自宅の別棟に所蔵)」を

選び、各々の友人を自宅に招き  
自分の能力の成果を知って貰お  
う―と番組側は試みたが、――  
同じ「科学」の大枠に括られ得  
るも「生物」と「機械」・即ち種別  
に拠って明暗が別れた格好だ。

「古生物」には四人の男子生  
徒(皆同級生?)が訪れ、本人男子  
の母(定点隠し撮影を通し視聴)は  
「復来る」旨の言葉を発した友  
人の姿に「笑顔で語り合うは何  
年振りか」旨の安堵を示した。  
：一方、「古時計」について言  
うと、番組側の目論見は失敗に  
終わった。訪れたのは、五〇歳  
代の男性(学校の教頭代理、との事  
だが)のみ。本人男子は「小学三  
年の頃に遊びに行った高知の時  
計店へ行き(↑高校卒業後?)」、  
時計修理工として其処を継ぐ」  
旨を語ってたが…。

此の差は何故か。

古生物から語り始めて現生物  
に話が至ると結局、人に突き当  
たらざるを得なくなる。人も亦、

生物だから。即ち、古生物を語る事は結果的に自分達の命について考える事の動機に繋がる。其故、同年代の友が集まり易く且つ話も盛り上がり易い。一方、古時計を語っても其が人の命へ直に繋がる事は先ず無い。――「生物」と「機械」との決定的な差が其処に在る様に、筆者には思える。

中学一年。正に基礎人脈（＝金銭を介さず、悩み事も腹を割って話し合える）の形成途上に居る。友人招待に「先ず成功した古生物男子については、今回の件が「博士ちゃんの輪」とは別の基礎人脈作りの動機と成り得るか、此処は注意深く見守って行こう。――発達障害を抱えた状態で昭和に生まれ育ったが故に基礎人脈作りに失敗した筆者としては。

競馬・昭和の悲劇

（〈初〉）高校一年女子・

――一月一八日放送

勝馬投票券（馬券）を買えるには五年早い、「人馬一体」に魅了されてると云う高校一年女子の初出演（「若しかして、高校の馬術部員？」）。此の日は一九六五年（昭和四〇年）の「東京優駿競走（日本ダービー）」で優勝する等一七勝を挙げるも二年半後、ゴール直前で脱臼に陥り、其で落馬した騎手を気遣うが如き仕事を見せた後に薬殺された「キーストン」の話を写真付きで紹介した。

「諸外国については判らぬが日本に於いて、」競馬は悲劇の宝庫だ。古くは、：「東京優駿」で優勝し一〇連勝を遂げるも古傷を悪化させ破傷風で死に至った「トキノミノル」（一九五二）。：走行中に複雑骨折を負い薬殺処分と成る所、観客の声に押される格好で手術を受けるも、其が仇と成り過労死に至った「テンポイント」（一九七八）。：地方（東京・大井）競馬から中央へ移

った「ハイセイコー」が持て囃されてた頃、岩手では男性他者を押し退ける程の高い勝率を記録し続ける最中（此の間、『紅白歌合戦』に審査員として招かれた事も在る）に呆気無くぼっくり病死（↑睡眠中の急性心不全）に至った女性騎手の話も残ってる（一九七四）。

恐らくは此の高一女子、「気が付けば騎手の女房（後未亡人）」に続く格好で競馬記者後作家を目指してるかも知れぬが、悲劇の追求にのめり込む余り、ぱんくって自己嫌悪に陥る、って事に至らぬ様、先ずは祈ろう。

文具具

（〈初〉）小学六年男子・

――一月二五日放送

「杜の文具博」開催（於：宮城県仙台市、一〇月七〜九日）に合わせるの収録。幼稚園の頃から文具を買って漁っては約六五〇点を自宅に所蔵し、業務用の広報資料（↑親が文具会社勤務の知人に頼み込んで入手？）を愛読の上で

文具店に通っては店員を相手に品物の詳細について会話を熟し、「修正テープの費用対効果」を独力で調査しては学校の「自由研究（＝休暇期間中の宿題）」の課題として同級生達の前で発表――と云う小六男子。「：文具博」

の会場でも、出展した文具各社の広報担当者や「販売を終えた文具の復活」旨の陳情を含む会話を熟してた（実際、販売終了済の文具中、数件の復活が「：文具博」終了後、SNS経由で告知されてる）。

――「将来はドイツへ文具留学」旨を語っており、彼も一〇年程先の包括的人材候補と言えそうだが、そう成るか否かは、物的そして精神的な助言や援助を行う医療や社会福祉の専門家に（国内のみならず、留学先でも）恵まれるかどうか、に掛かっている――と、「：文具博」の会場にて何度か奇声を発してた様子（↑多動性故の現象？）から筆者には思えて成らなかつた。



前々回(六月二九日付)、「日本の公教育―普通の(＝平均的な知能(指数八五〇―一〇〇)を持つ)子」達を基準に行われる―を通して「広く世界で能力を發揮する人材」が殆ど輩出出来てない中、「博士ちゃん」達の働きの実社会の企業(家)や専門家方が持続的に活用し後援し乍ら彼等を育成していく事こそが、日本経済の(再)活性化へ導く恰好の動機と成り得る―と思える」旨を述べたが、筆者は今回も同様の期待を込めつつ、「広く…人材」を流行りの(?)「包括的(グローバル)人材」と言い換えつつ、敢えて宗教も対象に加え、各々神社参拝に臨んだ小四女子と中一男子、文房具の小六男子を「一〇年前後先の包括的人材候補」として挙げてみたが、此の他、南極観測用の砕氷船「しらせ」(白瀬)の副長との中継会見が縁で、帰還中の同船から招待を受け内部見学且

つ宿泊迄もさせて貰い、「名誉乗組員」の認定を受けた式典の答辞で「将来は船の設計士と成って恩返しする」旨を語った小学六年男子(二〇月一四日放送)も、新たな砕氷船造りで成功を見たなら、外国からの船造り要請の声を通して包括的人材と成る、其の有力候補と言えるだろう。



音楽関連で気に成った事々

競馬マニアの高一女子の話に先駆けて放送された、プロ歌手に成り立ての「美空女子」を聞き手として流された「伴奏楽団の指揮者(取材当時九〇歳代)が録った(音楽現場の責任者達は公演本番の様子を収録しておき、其を技術錬磨の為の反省材料として使ってる、との事)、美空ひばり最後の歌声(於・福岡県北九州市、一九八九年(平成元年)二月七日。此の四箇月後に死亡)」のテープ(二〇〇五年、「七回忌」に合わせCD化の上で発売)。

無論、放送では其の一部が紹介されたが、筆者としては改めて、「美空ひばりは流石、疎開世代(一九三七年(昭和十二年)出生)の特才者だ」と云う感を禁じ得なかった。

数年前、確かテレビ朝の情報番組にて、第二次大戦末期に於ける京浜間の空襲の中で必死に逃げ回った経験を持ち出し「だから、癌なんか怖くない」旨を語った落語家が居たが、美空も横浜で生まれ幼少期は其処で育つたと云うから、同様の経験が在り、其が「衰えて自動車も鉄道も使えず、ヘリコプターで往復移動、…楽屋で寝たきり、起きては介抱されやっと舞台に、座って…二〇曲を歌い切る」だけの強靱な精神力の源泉と成ってるかも―と筆者は想像を巡らしてみたくも成った。

人には無い。筆者も、…そして「博士ちゃん」達も。そうした条件下、晩年の美空の如く、「超・満身創痍」に直面しても自身に課された仕事をさて、全う出来るだろうか。



此の秋は「昭和(から活躍)の音楽家」の訃報が相次いだ。

歌手だけを観ても―

九月二二日、遠山一(金井政幸、男声四重唱『ダークダックス』要員。他の三人は既に死亡しており、是同集団は壊滅)。

一〇月八日、谷村新司(『日本テレビ放送網』に拠る『二四時間テレビ』のテーマ曲も作詞。今年が初共演と成る筈だった副司会者(大学生女優)の胸中哉如何に)。

一〇月一八日、門田頼命。

一月九日、大橋純子(佐藤純子)。

―何れも「博士ちゃん」達からは見事に嫌われた歌手だが、谷村は「昭和の作詞家」としては

「博士ちゃん」達の一〇傑には選ばれるだろう、と期待しつつ筆者は観てる。

さて「昭和の作詞家」と云うと、…此の人の計報—NHKのニュースでは扱ってなかったけど—も、「博士ちゃん」達・特に「美空女子」の応援歌を作曲した高三男子(以下、E〇男子)にとっては見逃せない、だろうね。彼が使ってる電子リードオルガン(Electronic Read Organ)を造ってる会社『ヤマハ』の関係者達の御陰で世に出た人だから。

◎十一月六日、三浦徳子(高原 徳子)。

若し此の先、番組『博士ちゃん』にて「昭和の作詞家・一〇又は二〇傑」を放送し且つ此の人・徳子女史が一〇傑以内に入るならば、「昭和の歌手・男女各一〇傑」(八月二六日放送)に於ける美空女子の例に倣って(？)、徳子女史の作詞家一年目に共同

で楽曲作りに勤しんだヤマハ関係者との会見にE〇男子を使っでは如何か。徳子女史はポップス、E〇男子は演歌—と種別は違えど、同じ大衆音楽。前述・美空女子の例に倣う迄も無く、徳子女子を世に出した関係者から発せられるであろう複数多数の言葉から得られる利益は多少たりとも在る、筈。



妹(今は小学一年。其にしても未だ可哀相!)をモデルに使って架空楽曲の覆紙も作る昭和歌謡好きの中一男子が作詞、E〇男子が作曲した「美空女子の応援歌」は、同女子本人の歌入れを経て『軌跡』と銘打たれ、一月からネット配信—外国資本を含め日本で使える銘柄を片っ端から利用してる様で—限定で公開されて居る。

但、敢えて申し上げたい。此の件を通して世界各国で聴かれたいとしても、是を以て「演歌が

世界に通用する」旨想わないで戴きたい。「前回(一〇月五日付)の蒸し返しと成るが、」先ずは日本国内で生歌を通して実績を積み上げ足場を固め—一〇年は掛かるだろうね—た上で更に、諸外国へも自ら進んで足を運んで、其の国に生まれ育った人々の輪の中に自ら進んで入り会話に参加し、其を通し彼等の生活習慣等を理解した上で、自らの旋律と歌声を現地語そして日本語で披露し、日本語と演歌の素晴らしさについて共感且つ理解を持つ人を多く得た上で、彼等に自らの音楽ソフトを買って戴く事。其の積み重ねの先に、美空ひばりが成し得なかった「海外に於ける日本語大衆楽曲の多量売買↓世界の演歌・世界の歌手」への道も拓かれ得る—と、「博士ちゃん」達こそが今の日本に在って「包括的人材」への至近距離に居る事を信じて止まぬ筆者は考え、期待してる。

お断り

◆番組『博士ちゃん』の出演者名は著作者『テレビ朝日』(—一般社団法人『日本新聞協会』社員)がホームページで公表致して居りますが、佳羅研では、個人情報保護に慎重を期すと共に、実名公表に因って生ずる可能性が在る諸々の危険を最大限に避けるべく、亦、法人格が無い自らの立場も考慮の上で、存命の方々については匿名又は仮名を原則と致して居ります。

◎佳羅研が運営するホームページ(含むブログ)に於いて実名表記を希望される方は、電子メールにて其の旨をお寄せ下さい(「アドレス」は当頁左下の枠内を参照の事)。特例を適用の上で改めて、実名で表記させて頂きます。■本書の作成に際しては、『テレビ朝日』ホームページと『ウィキペディア・フリー百科事典』を主に参照致しました。尚、「間網辞書」は『デジタル大辞泉』(小学館)を参照致して居ります。

佳羅放送戯評 『博士ちゃん』に想う事 其の伍

2023年(令和5年)12月31日発行 【2024年1月21日加筆修正済】

発行者 佳羅研究所

http://www.kar2007el.ecweb.jp/

お問い合わせ先(電子メール)

s9p-14@kar2007el.ecweb.jp